

〒600-8580 京都市上京区豊田1丁目1番1号
TEL:075-2519185
Doshisha Sports アトム
令和元年(2019) 硬式野球号外
10/16 水曜日 発行人 高倉 淳
http://doshisha-sports.net/ 編集人 上野 孝博

多彩な投手陣が勝利を引き寄せる 同志社アトム

- 今季登板した投手
- 溝田悠人 入部4年 右投右打
 - 難波雅也 社4年 右投右打
 - 仲野芳文 法3年 右投右打
 - 高橋恭平 経2年 右投右打
 - 西村颯真 法2年 右投右打
 - 道端晃大 法1年 右投右打
 - 高橋佑輔 入部1年 右投右打

◆同志社投手の今季全成績◆

選手名	試	回	安	振	責	球	数	防
高橋恭	5	41	32	38	8	623	1.74	
溝田	4	9	4	5	0	139	0.00	
西村	5	12	10	5	1	182	0.71	
道端	6	8	2	6	9	2	141	2.08
高橋佑	5	5	3	3	3	81	5.06	
難波	3	3	2	5	1	1	48	2.45
仲野	1	2	1	0	0	23	0.00	
計	29	82	63	61	15	1237	1.63	

One team One mission
〜繋結は力なり〜
同立戦R
10/18(16時) 19(18時) 21(18時)
@わかさスタジアム京都
※同志社・同女生は学生証提示で無料

立命打線を 黙らせる。わかさの地で



出陣や!! 伝統の二戦で 熱くなれ



強さ引き出す陰の立役者

難投策を陰から支えるのが正捕手・栗林だ。投手の能力を最大限に引き出すリードでチームをけん引する。連戦が続く今季、全ての試合に出場。肩の要として欠かせない存在となっている。栗林の仕事は、投手の持ち味が発揮できる配球を考案し、試合を動かすこと。多彩な投手陣の個性を生かすのが彼の武器である。そのためにおおのの性格や特徴の観察に日々取り組む。「それぞれの得意なボールもスタイルも違うので、それを理解してあげる。強肩による盗塁防止や、捕逸による進塁を許さないなど、投

術面での安定した活躍も続いている。一方で打撃力も成長を見せる。今季序盤は、一本が出ない状況が続いていた。そんな中、決死の覚悟で挑んだ対関大2回戦。適時二塁打を打ち、貴重な追加点を獲得する。チームの白星に貢献した。目指しているのは信頼されるキャプチャー。「栗林しかないと言われるくらいになりたい」。彼の同志が立命打線を封じ込めるはずだ。

ロススコアに抑え、同志社のペースに持ち込む

試合でもリードを守り切り、勝利を呼び込んだ。流れるような投手リレーはまさに杉内組の戦い方を象徴している。勝敗を左右する重要な場面では「繋ぎの野球」が真価を発揮。攻撃の糸口を与えない難投でゲームをものにしている。火花散らす伝統の一戦。1年間の集大成が見られるか。豊富な投手陣を擁する同志社は鉄壁の布陣で挑む。

◆お問い合わせ、定期購読のお申し込みは、<http://doshisha-atom.net/> までお気軽に!!

例年にも増して激戦が待たれる。熱戦を戦い抜く。杉内組は多くの投手陣を擁する。2年生エース高橋恭は、強豪校から入ったわけではなく、1年生から投げてきた信頼のおけるピッチャーとなった。本拠地・同志社大の信頼を背負っている。昔の開幕戦で先鋒勝利を挙げるとリーグ上位となる40のAクラス入りに向けて奮闘した。豊富な投手陣を擁する。2年生エース高橋恭は、強豪校から入ったわけではなく、1年生から投げてきた信頼のおけるピッチャーとなった。本拠地・同志社大の信頼を背負っている。昔の開幕戦で先鋒勝利を挙げるとリーグ上位となる40のAクラス入りに向けて奮闘した。

高橋恭 エース 杉内組 熱戦を戦い抜く。例年にも増して激戦が待たれる。熱戦を戦い抜く。杉内組は多くの投手陣を擁する。2年生エース高橋恭は、強豪校から入ったわけではなく、1年生から投げてきた信頼のおけるピッチャーとなった。本拠地・同志社大の信頼を背負っている。昔の開幕戦で先鋒勝利を挙げるとリーグ上位となる40のAクラス入りに向けて奮闘した。

豊富な投手陣の名を連ね、高橋恭の平均は「高い」という言葉が要所で際立った。対関大2回戦、難投策の真骨頂が発揮された。先投手陣を支えてきた溝田1年生の奮闘もまた、チームの良否を左右する重要なベテランだ。3回には、リレーの切り札として期待を集める四村が登板。気持の強さに加え、スライダーを中心とした変化球を武器に7回まで安定した抑えを続けた。8回からマウンドに上がったのは、新戦力として台頭した高橋佑輔。1年生ならではの思い切りの良さがもたらした速球は打者にとって大きな脅威だ。勝ち越しに追い上げた10回、試合を締めくくった高橋恭は、試合に安定感を添えている。今試合でもリードを守り切り、勝利を呼び込んだ。

SPORTS BULL

スポブルなら

いろいろなスポーツのアレもコレもが

完全無料

すべて無料

スポブル

SPBL

スポーツブル

App Store

Google Play

http://doshisha-atom.net/ までお気軽に!!

VS関学大初白星で雪辱果たす

9/15・16 @ほっともとフィールド神戸(兵庫県)

1回戦		2回戦	
(一)小川晃9	同志社0	(一)小川晃9	同志社0
(二)四川5	同志社0	(二)四川5	同志社0
(三)杉内6	同志社0	(三)杉内6	同志社0
(四)松本3	同志社0	(四)松本3	同志社0
(五)鎌倉7	同志社0	(五)鎌倉7	同志社0
(六)工藤8	同志社0	(六)工藤8	同志社0
(七)栗林2	同志社0	(七)栗林2	同志社0
(八)本間4	同志社0	(八)本間4	同志社0
(九)高橋恭1	同志社0	(九)高橋恭1	同志社0

昨年の春季リーグから負け越している関学大戦。リベンジを果たし、ついに今季初の勝ち点を手にした。1回戦では高橋恭と道端の2人が力投を見せた。試合序盤、小川晃の安打を皮切りにチャンスメイクするも、得点につながらない。それでも3回表、関学大に

先制点を決められたが高橋恭が躍る。連続安打を許さず、最少失点で裏の攻撃を迎えた。何としても1点を返したい同志社は、相手投手の2度の暴投で生まれた好機を逃さなかった。杉内に続き松本(スポ4)が生還し1-1で逆転に成功する。1点リードでマウンドに立つ高橋恭は徐々にエンジンをかけ、幾度のピンチを切り抜ける好投を見せた。その後、9回に代わって登板した道端が冷静なピッチングでチームに勝利をもたらした。



2連勝で勝ち点を取りたい2回戦。先発した清田から四村、高橋佑と同志社の継投が光る。しかし得点につながる1本が出ず、9回まで両校ともスコアボードに0を並べた。試合が動いたのは10回表だった。代打・高尾が初球をレフト前へはじき返し、決勝点を挙げる。「初球を思い切って強く打てる選手」(道端監督)。指揮官の期待に応え、待望の一打を放ってみせた。失点が許されない重圧の中、裏に道端がマウンドに上がる。危なげないピッチングで相手打線を三者凡退に抑え、見事に連勝をつかんだ。

借敗し優勝の可能性

10/2~4 VS関大 @南港中央野球場(大阪府)

ホームに生還し2点を追加。今季ここまでチーム最多得点となる6点を挙げて、優勝への望みを3回戦につないだ。同エースが登板し、勝ち点を懸けて臨んだ3回戦。序盤から関大に流れをつかまれる。甘く入った球を痛打され、わずか4球で先制点を奪われてしまう。追い付きたい同志社は8回表、杉内がヒットで塁に出る。すかさず盗塁を成功させ、振り逃げの間にホームイン。反響のろしを上げた。しかし10回裏、ミスが続き無死満塁のピンチに。その後サヨナラ打を許し、無念の敗北を喫した。156球を投げ放ったが、好機を生かせず1回戦を落とす。同志社打線が暴発したのは2回戦だった。2回裏に先頭の松本がヒットで出塁し、無死満塁のチャンスへ。守備の乱れから打者一巡の猛攻で、4点を獲得した。3回裏には適時打を放った工藤が、相手の隙をついて

あと一本が出なかった。幾度となく得点圏に走者を進めるも得点までつながらない。「そこがずっと課題なので」(本間)。1勝2敗で負け越した。優勝への道は閉ざされた。

成長の夏

8月上旬、部内で行われた紅白戦。選手それぞれの実力の差を見極め、秋季リーグ戦のメンバーが選抜された。掲げる「全開野球」のもと総力を挙げ、万全の体制で最後まで駆け抜けた。チームの士気が

浮き出た課題。秋季リーグ、残された課題はあと1つ。オープン戦から勝負所でバントミスやエラーを改善するべく、練習を重ねてきた。しかし、なかなか白星を挙げることができず、目標として掲げる神宮出場への道は閉ざされた。同志社の持ち

2018秋季リーグ 同 2019春季リーグ

昨秋、福島組最後の試合を勝利で飾るべく臨んだ一戦。1回戦、2回裏で1死満塁のチャンスで先制に成功する。さらに4回裏、辻(高卒)のヒットに続き打者が次々と出塁し、追加点を得た。守備では福島季(法卒)の安定した投球でリードを守り切り、4-1で勝利を取った。2戦で勝ちを決めた同志社、初回から攻守共に好調な

立ち上がりを見せるも6回裏、2点を奪われ逆転される。さらにホームランで一挙5失点。反撃を試みたが1歩届かず、6-8で敗北した。何としても勝ちたい3回戦。エース福島季が序盤から波に乗れず連続失点を許した。その後も悪い流れを断ち切れず2-11で試合終了。終始見せた勝利への執念は、実を結ばなかった。

全ての勝ち点を手にした相手手前に、意地とプライドに燃えて挑んだ春季。伝統の一般を制したのは立命大だった。1回戦、3回裏で相手打線に捕まり一挙4失点。その裏で2点を返すもうまく軌道修正できず、6-4で敗北を喫した。絶対に負けられない2回戦。2点を追う7回表、ここ

杉肉組の軌跡



開幕節、連敗で勝ち点逃す



9/7-8 VS近大 @皇子山球場(滋賀県)

開幕節、連敗で勝ち点逃す。昨シーズンの近大相手に苦戦した(苦悶)も、勝ち点を奪取するとはできなかった。昨年同様、連敗で秋季リーグが幕を開けた。

4戦を終えて、勝ち点は1のみ。悔しい試合が続いている。今季は中軸が打撃不振に苦しんでいる。小川晃、杉内・松本の打率が3割に届いておらず、筒子が上がらない。チャンスでも、クリーンアップでプレーキがかかる場面が多く見られた。さらにチーム打率はリーグ5位、安打数にいたってはリーグ最下位。昔からかなり筒子を落としている。また、要所で細かいミスが目立つ。不意にけん制死を見せている。さらに救急車を呼んで自らのミスが取り除かれる。対関大3回戦では守備のエラーからピンチを招き、サヨナラ負けを喫した。拮抗(きっこう)した試合ほど、1つのミスが取り除かれる。打撃が不振な一方、投手陣は昔に比べて肩が厚く

打線が機能せず敗北。10/13・14 VS京大 @ほっともとフィールド神戸(兵庫県)

予スタメン。9小川晃、8工藤、6杉内、3松本、2栗林、7鎌倉、5四川、4本間、1高橋恭。

DOSHISHA 戦力分析

立命の若きスラッガー・宮崎龍成は、今季から頭角を現した。秋季リーグの個人打撃成績で堂々のチーム首位に躍り出ている。高校時代、岡山県・創志学園高校でスタメンとして甲子園出場を経験を持つ。持ち味は思い切りの良さ。すでに2本の本塁打を放っている。打率はリーグ5位の0.375で出塁率は0.474

夏は冬扇

夏は冬扇。暑い夏に涼やかな風を吹かせるように、選手たちはそれぞれの課題を克服し、成長を遂げている。